

## 鎌倉市観光振興推進本部 第5回会議 会議録

日 時：平成21年3月16日(月)15:00～16:00

会 場：鎌倉商工会議所 301会議室

### 会議の概要：

鎌倉花火大会個別検討部会長から、「鎌倉花火大会開催時期について(提言)」について内容説明があり、その後質疑を行った。その結果、花火大会の開催日を見直すには、なお検討を要するとの意見が多数を占めたため、再度、鎌倉花火大会個別検討部会において検討することで、本部員の了解が得られ、散会した。

### 議事の概要：

1. 開会あいさつ

2. 庶務事項

傍聴者は、応募、出席共になし。

3. 報告・審議事項

(1) 鎌倉花火大会の開催について

4. その他

### 1. 開会あいさつ

市民経済部長：

皆さんこんにちは。ただいまから、第5回鎌倉市観光振興推進本部会議を始めさせていただきます。本日は定数28名のうち23名の方にご出席いただいておりますので、会議は成立しております。

では、以下の進行につきましては、本部長、よろしくお願い致します。

本部長：

皆さん、こんにちは。それでは、第5回の鎌倉市観光振興推進本部会議を始めさせていただきますと思います。冒頭一言、ご挨拶申し上げたいと思います。

本日は、お忙しい中、急なお声かけにもかかわらず、鎌倉市観光振興推進本部の第5回会議に多数ご出席いただき、誠にありがとうございます。年度末の忙しさに加え、今年は昨年秋以来の世界経済の落ち込みが日本経済にも大きな影響を与えており、鎌倉市も大変厳しい経済情勢になるのではないかと考えております。このため、市としては、中小企業支援のための緊急経済対策などに重点的に取り組んでいるところです。

さて、経済が不安定となりますと、まず観光や飲食などの娯楽費が削減されるのが世の常でございます。国際的な観光都市である鎌倉も影響は避けられないと思いますが、何とか皆さんのお力を借りて、地域が一つである事をアピールして、お客様に鎌倉らしいおもてなしを提供していきたいと考えております。

今日は、花火部会長に出席いただいて、歴史と伝統のある鎌倉花火大会の見直しについて、ご提案をいただくことになっております。こういう社会経済状況の時こそ、皆さんと一緒に元気が出るような鎌倉の観光振興に取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、お手元の第5回会議次第に沿って進行させていただきたいと思います。

「2．庶務事項」でございます。会議の公開等について事務局から説明をお願いします。

## 2．庶務事項

事務局：

庶務事項の説明の前に、本日配付いたしました資料について、ご確認させていただきます。

まず、A4版1枚の会議次第、本日付の本部員の名簿、資料1-1、海水浴場の浴客数、資料1-2、JR鎌倉駅の乗降客数、資料1-3、江ノ島電鉄全線の乗降客数、資料1-4、8月下旬の日程表、第4回の本部会議会議録、そしてA3版の席次表になります。以上ですが、お手元、よろしいでしょうか。

それでは、会議の公開状況について、ご報告いたします。本日の会議の公開状況ですが、今回は会議開催が急な日程になりましたことから、広報かまくらによる傍聴者の募集は行いませんでした。したがって、ホームページ上では募集を行いました、ご応募はありませんでした。最後に前回の第4回会議録についてですが、1月16日締切で確認をお願いいたしまして、修正等を行ったものを確定版とさせていただきます。以上でございます。

本部長：

それでは傍聴者がいらっしゃらないので、このまま会議を続行させていただきます。では、「3．報告・審議事項」に移らせていただきます。「3．報告・審議事項（1）鎌倉花火大会の開催について」、部会長から説明をお願いします。

## 3．報告事項

### （1）鎌倉花火大会の開催について

部会長：

着座のまま説明させていただきます。よろしく願い致します。

本日は、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。皆様のお手許には、すでに「鎌倉花火大会の日程変更について」という書類をお配りさせていただきました。個別検討部会では、各団体からの部会員と共に協議をいたしました。

鎌倉の花火大会は長い歴史と優れたロケーション、水中花火が名物であることから、大変多くのお客様を迎えて定着しています。しかし、ここ数年は、観客数が大変多くなり、安全面や収容面で問題が色々出てきています。この観客の動員に心を配りながら、うちわやグッズの販売を行い、大きな経済効果をもたらすと言う本来の目的と安全面を考慮するという、相反する面が問題となって来ました。

資料としては、資料1-1は海水浴場の浴客数をまとめたもの、資料1-2はJR鎌倉駅の乗降

客数で、資料1 - 3は江ノ電の乗降客数となります。いずれも19年度、20年度の数値をグラフ化したものを配付させていただきました。

相反する問題を解決する方法として、開催日の変更という案が出てきて、個別検討部会として検討してまいりました。最終的に2月の部会では多数決になりましたが、8月25日ということで決議がされました。しかしながら、賛成8に反対4という微妙な結果でもありました。部会としては、上部機関である本部会議にてご審議いただかないと最終決定まで行き着かない訳ですから、ご検討いただければと思い提案いたしました。できれば、8月10日か25日なのか、今年度からなのか来年度からなのか、来年度からとしたら何日にするのかなど、ご討議いただければ幸いです。

本部長：

ご紹介が遅くなりましたが、本日はオブザーバーとして、神奈川県神社庁鎌倉・横須賀・三浦支部の副支部長にもご出席をいただいていますので、ご紹介させていただきます。

では、花火大会の日程等について、ご意見をお願いしたいと思います。

本部員：

10日に開催しているのを25日に変更するという提案ですが、商店街連合会としては8月後半の日程にするのは大反対で、従来どおりか出来る限り前倒しでお願いしたいと思います。というのは、その昔は7月中に開催していたものを藤沢市、逗子市と相談して、鎌倉は8月10日となったものです。そもそも、花火は由比ガ浜と材木座の海浜業者が別々に坂ノ下、飯島でやっていた。由比ガ浜が玉屋、材木座が鍵屋を使って打ち上げていたものです。このため、どっちが良いかなんて争論にもなったりしたため、観光協会ですべてやってくれないかということになったものです。当時は海の出店業者も380軒くらいあって、海浜からでは無理だから船で上げてほしいということもあったりして、昭和31年頃だと思うが、観光協会が一本化してやることになったものです。

その際も日程は、近隣市と調整して8月10日になった経過があります。その時も市民の反対があって、観光客誘致ということでは7月中のほうが良いということだった。それでも近隣市と調整して鎌倉は8月10日を動かさないということになったものです。

25日では波も高く海水浴も終わり、海浜業者も店をたたむ時期だし、やっても意味がないのではないかと思います。したがって、商店街連合会としては、10日以降に変更することは反対します。

本部員：

お尋ねしますが、10日を25日にするというのは、人数が減るという考え方でいいか。

本部長：

質問は後ほど、一括してお答えします。

本部員：

日程の問題は、諸般の事情もあると思いますので、皆さんで決めていただければ結構ですが、鉄道事業者としては、開催している間に時間的に乗降客が集中してしまうので、警察と迂回の経路を工夫していただいたりしています。しかし、どうしても西口の問題について危機感を持っています。

その辺を念頭に検討していただければと思います。

本部員：

海浜業者の代表として、昨年の花火大会実行委員会に副実行委員長として参加させていただきました。さきの部会にも参加しており、25日の変更に賛成をさせていただきました。最近の10日の海浜の混雑状況は異常なほどであり、鎌倉警察からご指摘を受けるのも当然のことかなと思うくらい、危惧しています。

安全第一を考えると人が少ない時期に行うのが一番で、観光のお客様が少なく、花火だけ見に来る様な時期に開催すればということで、25日になったと思っています。先ほど当時のお話もありましたが、諸先輩からの話、現在出店している業者の中では、観光客相手のビジネスをしているという業者はほとんどなく、花火の日も貸席を予約して対応している状況なので、商売の話になれば、お盆の忙しい時期にではなく暇な時期に集客していただければ我々としてはありがたいことだと思っています。

本部員：

人の多い8月10日ではなく、人の少ない25日に開催して、観光客を平準化するという意味で開催するということか。それはそれで構わないが、海上の状況を見ると、8月の後半になると波が高く、土用波が押し寄せる時期になるので、海上での開催は影響が大きいように考えるのがいかがでしょうか。

本部員：

ガイド協会としては、変更したとしても通常のガイド活動に支障は無いと思います。しかし、ガイドする立場としては、鎌倉の歴史という考えからすれば、伝統のある行事を変更するのはどうかと考えしまう。むしろ、本当に危険である、こういうところに問題があるとはっきり説明していただかないと危険度が分からないので、判断つかない。

本部員：

私どもとしては、どちらでも問題はありません。

本部員：

私も商連の副会長を兼ねているので、8月25日には賛成できない。マリンスポーツの方がおっしゃったように海は荒れて危険です。8月10日でやるのも危険だという。両方危険は同じである。警察の警備が手薄になるという話ならば、お正月に警備をお願いしているように、県警本部に警備の増員をお願いすべきではないか。JRさんも臨時電車を考えると、何とかまず対応策を考えるべきではないかと思う。7月から8月10日になったのも土用波が立つぎりぎりの時期だと思う。10日以前なら考えられるがどうか。

本部員：

この話の前提は部会長が話されたように、観光・産業の振興と安全性の調和という正に相反する

面での社会的な調和をどうするのかということだと思います。どのような危険かということ、本来道交法上難しい消防署前の車道に見物客を座らせてしまったり大変危険であったり、そのためにバスの運行に支障をきたしてしまったりと、キャパシティに対して総量を減らすという観点から25日の案が出てきたものと理解しています。

つまり、10日が良いのか25日が良いのかという議論ではなくて、安全性を確保するのが話のスタートであったということです。

さきほど、県警への機動隊員の派遣要請の話もありましたが、すでに相当数の派遣を受けております。会場だけでなく、駅前にも人の滞留ができることから、キャパシティ以上の人が集まってくることが混乱の原因等といえます。明石事件の判決は、主催者は、行事等の開催により雑踏を生じさせる原因者として、自主警備を実施すべき立場にあり、雑踏事故の防止は、主催者の責任においてなされるべきものとしています。また、警察は、主催者に事前に指導、助言させていただく立場としています。結局、警備面の安全の確保については主催者側に責任があるとして、担当した市職員に執行猶予ではあるが、禁固刑が言い渡され確定しています。他方、警察官は現場の誘導に過失があったとして控訴審で係争中であります。もちろん、警察としては、主催者を支援協力し、鎌倉の花火大会を成功裡に導きたいと考えていることから、キャパシティ以上の人が集まって、危険な状態が発生しているという視点から考えていただきたいと思います。

部会長：

先ほどの質問に対してですが、あくまでも想定としてお答えしますが、根拠となるのは、資料1-1のグラフになります。当日は、10万人を超える人が海水浴客として集まっており、これには周辺で集まっている人は入っていない人数です。お盆休みはやはり多いですが、天候の影響もありますが、後半は比較的少ない人数です。なぜ25日にしたのかということも特に根拠が有るわけではなく、資料1-4にあるように、市内のイベントなどと重ならないように検討したものです。

本部員：

人数が減るので、少しは混乱が減るという考え方ですね。人数を減らそうというのは良いが、せっかく花火大会として盛り上がってきたのを抑えてしまうということになります。それは構わないということですか。

部会長：

その辺は、まさに冒頭でお話した、相反する部分をどうやってバランスさせていくかということで悩むところです。鎌倉はすでに沢山いらしているから良いですが、本来ならば、いかに人を集めるかお金を落としてもらうかで必死になる部分だと思います。他に比べれば、うらやむ部分だと思いますが、葛藤のある部分でもあります。

本部員：

海岸の収容人員は何人が皆さん分りますか。計算したこと無いと思います。昔はちゃんと計算して座って何人、立って何人と考えたものです。ただ多いだけでは話にならない。その辺をきちんと考えてもらいたい。

本部長：

具体的な数値となると、潮の加減や砂浜の減少など難しい点もあるが、その辺もきちんと押さえたらどうかというご意見だと思います。

本部員：

実際に危険な人数は何人ぐらいと考えているのか。その場合の誘導の仕方はどう考えているのか。人数が減れば誘導の仕方が変わってくるのか。その辺を整理しないといけない。警察が良いと言っても市民の立場では悪いということもある。ご検討いただきたい。

本部員：

海岸の総量というか、実際には、もう目一杯の状態と聞いています。警察としては、海の家が無い時期に開催できませんかと投げかけた経過もあります。今、若宮大路にあふれている人も海の家が無ければ吸収できるのではと考えています。その辺も部会で検討していただいて25日になったようですが、実際には色々な要素を検討して日程は決めていくものと考えます。警備誘導のやり方に問題があれば、警備の主体である主催者側と連携しながら検討していきたい。

本部員：

これまで主催者側の立場だけで考えているように思います。鎌倉の花火は夏の風物詩・象徴でもあります。忘れていけないのは子供達が夏休み中だということです。25日になりますと子供達は精神的にも物理的にも余分な時間がない時期になります。さきほどの高潮の問題、砂浜の問題もあります。私どもは、常にお客様をお迎えする立場で大切にしないといけないと思っています。したがって、あまりに現状と違う日程については、ふさわしくないと考えます。

本部員：

資料を見ると、花火大会当日で約6万人の方が増えているように読み取れます。これを25日に充てはめるとある程度読めてくると考えます。その頃には逗子で花火大会を開催されているようですから、様子を聞いてみたらいかがでしょうか。

逗子の人数がそれなりに集まって来ているようであれば、全体の人数を減らすことなく、そのまま分散が出来ると思うべきではないでしょうか。

本部員：

逗子市は2度やっていると思います。

事務局：

逗子の状況ですが、今年は8月の27、28日で開催したいという段階で、まだ実行委員会も立ち上がっていない状況です。この日程は、逗子市でも初めての日程になります。

副本部長：

観光協会として一昨年までやってきて、昨年から実行委員会にしてもらいましたが、10日ではとにかく人が多すぎて危ないということで提案させてもらいました。危ないということは、それだけ警備にもお金がかかるということで検討してきたものですが、皆さんの話からすると、25日はともかく日程を変えるということは宜しいのでしょうか。

本部長：

10日は伝統もあり変えるべきでないという意見もあります。

副本部長：

日程を変えないとすると、危険である中で、どうやって開催するかという検討をまた始めないといけません。

本部員：

危ないということは、いつやっても同じではないですか。

副本部長：

8月10日を25日にするという事は、先ほどから皆さんのご意見を伺っている限り無理なことかなと思っています。やはり海の問題、鎌倉花火大会の名物である水中花火が上げられない可能性が高い日程を選ぶのはいかがでしょうかと考えます。やはり、小嶋会長がおっしゃるとおり、前倒しということであれば可能性あるかなと思います。

本部長：

この問題、やはり安全第一ではありますが、一方で観光振興、経済振興の面も持っております。伝統を大切に、キャパシティと危険の度合いについて合理的な裏づけ・説明が必要というご意見もありました。本日は結論を出さないで、出来ればもう一度、花火部会で再検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

本部員：

「異議なし」の声多数

本部長：

ありがとうございました。それでは、もう一度ご検討いただくということで、今後について事務局何かありますか。

事務局：

もう一度、部会に持ち帰っていただいて、ご検討をお願いしたいと思います。次回の本部会議は5月末に予定しておりますが、それまでに部会の方でまとまるようであれば、また臨時に開催させていただければと思います。

本部長：

では、ご了承いただいたということで確認させていただきます。では、その他の項で事務局何かありますか。

特に無いようですので、これにて終了させていただきます。長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。